街と、人と、生きていく。　マチビト
まちづくりコラム
タウン誌事例集
マップ事例集
取組事例
地図から検索

「まち×アートの可能性」

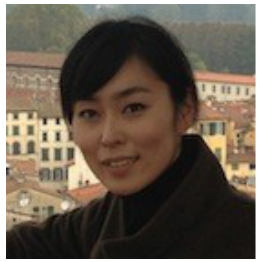
シェアする Tweet

奥田和子（おくだ　かずこ）

NPO法人 大森まちづくりカフェ理事

生まれも育ちも「大森」

本業は建築＋インテリア。故郷である「大森」をもっと魅力ある「まち」にし、仲間を増やして楽しい日々を過ごすために、「大森まちづくりカフェ」に参加。アートコーディネーターとして精力的に活動



藤好邦江（ふじよし　くにえ）

彫刻家

大森出身。2007年イタリア国立アカデミア美術学院卒業、2011年大理石学校（夜間）３年制卒業後、2012年にバチカン市国にローマ法王像を献納して注目を集める。大理石の町カッラーラを拠点としているが、冬は東京で制作

ログイン

会員（メルマガ）登録はこちら！

メールマガジン配信内容募集中

マチイベ！ -街のイベント- 掲載依頼募集中

サイト内検索

検索

もっと詳しく検索する

東京都にある大田区大森地区は、大正から昭和初期にかけて「馬込文士村」と呼ばれ、三島由紀夫、北原白秋、山本周五郎など、多くの文士や芸術家が暮らしていました。そんな芸術家の暮らす街の伝統を未来に活かそうと、地元のNPO大森まちづくりカフェが、「大森アート・ヴィレッジ プロジェクト」や、「おおたアーティスト・イン・レジデンス」など、アートに焦点をあてた取組を継続的に展開しています。

今春のアートイベント「アートフェスタ2016」も、大森まちづくりカフェ奥田理事のネットワークのもとで、多くの芸術家が参加して開催しています。その中でも注目したい芸術家のひとりが、日本人でありながら2012年にローマ法王の胸像を作成して注目を集めたイタリア・カッラーラ在住の彫刻家藤好邦江氏です。

彫刻家をめざす若い日本人が、芸術大学卒業後すぐにローマ法王の胸像を制作するということはイタリアでも極めて異例なことです。さらに、藤好氏が将来を約束された肖像作家として生きることに飽きたらずに、卵をモチーフとしたテーマ等、今も新たな彫刻スタイルを模索し続けていることも驚きです。

そんな新しい彫刻を探求し、世界を舞台に活躍している藤好さんが、「アートフェスタ2016」では、大森の街中から少し外れたビルの一角でオープンアトリエを開催することになりました。当たり前の日常生活にアーティストとの出会いを通じて世界につながれる窓を提供することが、アートを活かしたまちづくりの醍醐味なのかもしれません。

最近様々な地区で取組まれているまちづくりとアートのコラボレーションに、地域は何を芸術家に期待するのか、そして芸術家の側からこうした取組はどのように受け止められているのか。こんな疑問に少しでもお答えいただこうと、大森アート・ヴィレッジ・プロジェクトを主催するNPO大森まちづくりカフェの奥田和子理事と彫刻家藤好邦江氏に、「まち×アートの可能性」についてお伺いしました。

登録日 2016年3月11日（金曜）00:00

@machigenki

街元気 Facebook

経済産業省

中小企業基盤整備機構

株式会社 全国商店街支援センター

経済産業省（法人番号 4000012090001）
主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室　事務局／株式会社　野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy,Trade and Industry.

街と、人と、生きていく。　マチビト
まちづくりコラム
タウン誌事例集
マップ事例集
取組事例
地図から検索

「まち×アートの可能性」

1.大森地区におけるアートを活かしたまちづくり

なぜ、アートを活かしたまちづくりに取り組まれたのですか。「大森アート・ヴィレッジ・プロジェクト」についてお聞かせください。

奥田／私はもともと建築学科出身ということもありますが、アートにずっと関心をもっており、郷土「大森」の資産である馬込文士村の歴史や伝統をまちづくりに活かしたいと考えてきました。

大森の魅力を発見、創造、発信する活動を実践するために、大森まちづくりカフェを立ち上げたのは2004年のことですが、実際にアートの取組を開始することができたのは、2011年の「大森アート・ヴィレッジ プロジェクト」からです。

プロジェクトでは、アートのある国際観光都市大田区形成の最初の一歩として、大森を中心としたエリアを対象に、在住のアーティスト、ギャラリー、芸術的な産業技術、博物館等をネットワークし、その魅力を発信することで、地域住民による地域力と地域の文化力を醸成し、魅力ある地域の創造に寄与することを目指しました。この取組は2011（H23）年度、2012（H24）年度の大田区観光まちづくり助成事業にも採択され、プロジェクトを軌道に乗せることができました。

アートを活かすために、まずやったのはアートマップの制作です。地元ゆかりのアーティストやその作品をリストアップしマップに落とし込みながら、まちの中のアートスポットを発見していきました。また、2012年からは、毎春アートフェスタを続けて開催しています。海外の芸術家を招聘して、アーティスト・イン・レジデンスも何回か開催することができました。

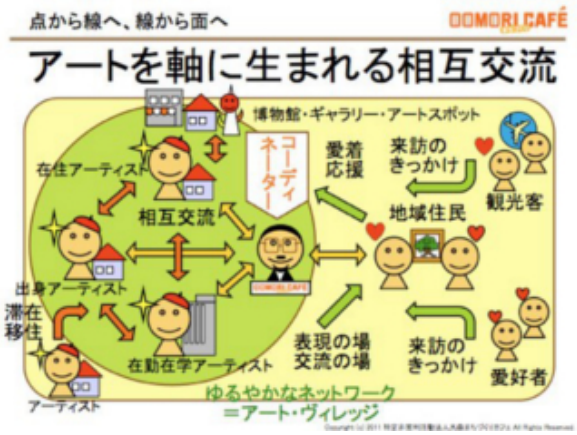
ログイン
会員（メルマガ）登録はこちら！
メールマガジン配信内容募集中
マチイベ！ -街のイベント- 掲載依頼募集中
サイト内検索
検索
もっと詳しく検索する

さらに芸術家や有識者をお呼びして学ぶ勉強会「夜学」を開催し続けてきました。2016年1月時点で68回目になります。それぞれ地道な取組ですが、アートによるまちづくりもここに来てどうにか定着してきたと実感しつつあります。

アーティスト・イン・レジデンスのワークショップから

プロジェクトを通じて、奥田さんはアートを通じたまちづくりにどのようなことを期待されているのですか。

奥田／一言でいうと「アートを軸に生まれる相互交流」ということです。アートはその活動を通じて、様々な人と人との相互交流を促進します。アートは地域住民だけでなく、芸術愛好者や観光客など、さまざまな人を惹きつけます。こうした中で、アーティストは地域に表現の場や交流の場を見出す一方、地域住民や地域を訪れる人々はアーティストを応援することになります。



出所）大森まちづくりカフェHP

@machigenki

街元気
Facebook

経済産業省

中小企業基盤整備機構

株式会社 全国商店街支援センター

中心市街地活性化協議会 支援センター
J-Net21 中小企業ビジネス支援サイト

　また、アーティスト同士も在住アーティストだけでなく、内外のアーティストや在勤在学のアーティストとの交流が可能です。しかも大田区には先端技術を有する中小の町工場がたくさん存在しています。アーティストと町工場の技術者が出会う中で新たな発想が生まれる可能性もあると思います。こうした交流が促進されれば、様々な出会いと交流が生まれ、豊かな地域の創生が可能になると思います。

　ただし、こうした交流は放っておいては生まれません。コーディネーターとして関わる中で相互交流の好循環を生み出したいと考えています。

登録日 2016年3月11日（金曜）00:00

経済産業省（法人番号 4000012090001）
主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室　事務局／株式会社　野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy,Trade and Industry.

街と、人と、生きていく。　マチビト
まちづくりコラム
タウン誌事例集
マップ事例集
取組事例
地図から検索

「まち×アートの可能性」

2．藤好邦江オープンアトリエについて

こういう取組を通じて惹きつけられたのが藤好さんということになりますね。ところで藤好さんは、イタリアで彫刻の勉強をされた後、間もなく前ローマ法王ベネディクト16世の胸像制作を依頼されたとお伺いしています。ローマ法王の肖像を日本人が担当するのは異例のことだと思いますが、その経緯をお聞かせください。

藤好／イタリアでカッラーラ（CARRARA）という可愛いらしい名前の大理石の産地に8年間暮らして彫刻を彫っています。

　彫刻を彫りたいと思ったのは大学3年生の時ですが、イタリアで修行することになったのはもっと本格的に彫刻を追及したいと思ったからです。美大出身の母親に彫刻をやるならどこがいいかと聞いたら「イタリア」と即答されました。それでイタリアに渡り彫刻を勉強することにしました。

　イタリアでは、まずフィレンツェにいって安宿に住み込みで働きながら彫刻を勉強するならどこがいいのと聞いて回って教えてもらっていました。そうして知ったのがカッラーラの国立アカデミア美術大学です。アルバイトをしながら語学学校にも通い、24歳で入学することができました。

　大学ではだれよりも早く行って、誰よりも遅くまで作業をしていたのですが、そのうち先生がひとつの机に私の作品だけを置くようにしてくれ

前ローマ法王・ベネディクト
16世の胸像

ログイン
会員（メルマガ）登録はこちら！
メールマガジン配信内容募集中
マチイベ！ -街のイベント- 掲載依頼募集中
サイト内検索
検索
もっと詳しく検索する

て、大学で注目されるようになりました。2009年にベネディクト16世の胸像制作の依頼を受けることができたのは、こうして大学で知られるようになったからだと思います。選ばれてから完成させるまでに3年かかりました。

どこが評価されたのでしょうか。私は女性なので、男性のように石に打ち勝つような方法で彫刻を彫ることはできません。だから私なりの方法で、力任せに彫るのではなくて、石と対話しながらなぜるようなやり方で彫るようにしています。その作風が良かったのかもしれません。また、肖像の制作に当たっては目の表現にこだわってきました。法王の肖像は、「目」の表現がよいと評価をうけています。

でも、イタリアでも法王の肖像というと、通常は大作家が作るのが一般的で、日本人で大学をでてほとんど実績もない私のような彫刻家が選ばれるのは異例のことでした。だからそれなりの苦労もありました。

http://kuniefujiyoshi.com/

現在は、肖像ではなく、シュールな彫刻を目指していらっしゃるとお伺いしています。肖像作家ではない道をなぜ志向されているのですか？

藤好／それは、私が肖像作家ではなく、あくまで彫刻家になりたかったからです。法王の胸像を彫ってから私にも肖像制作の注文が舞い込むようになりました。でもそこでこのまま肖像作家になってよいのかと考えてしまいました。しばらく考え続けて分かったのが、私は肖像作家になりたいのではなくて、彫刻家になりたいということでした。

Self Portrait（自刻像）

@machigenki

街元気 Facebook

経済産業省

中小企業基盤整備機構

株式会社 全国商店街支援センター

でも何を彫るのか。その時に思いついたのが「卵」というモチーフです。実は、そのころ日本のテレビ局から番組の取材を受けていたのですが、プロデューサーの「カッラーラには芸術家の卵が大勢いるんですね」という一言の「卵」という言葉に考えさせられてしまいました。

それまで得ていた評価にしがみつくのではなく新たな方向にチャレンジしていくという強い覚悟で、目のついている頭半分を切り落としそこに卵をのせました。この「卵」のテーマで昨年はパリで個展をしました。

中心市街地活性化協議会 支援センター
J-Net21 中小企業ビジネス支援サイト

登録日 2016年3月11日（金曜）00:00

経済産業省（法人番号 4000012090001）
主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室　事務局／株式会社　野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy,Trade and Industry.

街と、人と、生きていく。　マチビト
まちづくりコラム
タウン誌事例集
マップ事例集
取組事例
地図から検索

「まち×アートの可能性」

今回、大森でオープンアトリエを公開することになったのはどのような経緯からですか？

藤好／実は、イタリアには本当に日本に行ってみたいと思っている芸術家がたくさんいます。たまたま芸術のまちづくりで有名な直島にいった同僚がいるのですが、現地では本当によくしてもらったという話をカッラーラでしたものですから、イタリアの仲間から日本で開いているシンポジウムはないのかと熱心に聞かれてしまいました。シンポジウムは難しいが東京で開いているアーティスト・イン・レジデンスはないのかな、と思って検索したらでてきたのが私の出身地でもある大森の取組でした。

――――私の出身地の大森でも芸術家を招いている！

さっそく奥田さんに連絡をとりました。これがひとつのきっかけです。

もうひとつは3年ほど前にカッラーラの街で友人がオープンスタジオ（工房開き）を企画し、それが数年で街の一大イベントになっていることです。カッラーラの街には41の工房がありますが、私の工房はずいぶん街のはずれにあってどうせ誰も来ないだろうと思って私が休んでしまった時にわざわざ尋ねてきてくれた人が何人もいました。私のことを含め、本当にアーティストのことを知りたい人がたくさんいることを実感しました。

さらに、昨年、個展のためにパリを訪れたときにも工房開きが行なわれていて、画家さんの薄暗く貧しい工房に人が訪れているのを見て「これだ」と確信しました。

カッラーラとパリの経験で街の人達も芸術家のことを知りたいけれども知る手段がなかなかないこと

ログイン
会員（メルマガ）登録はこちら！
メールマガジン配信内容募集中
マチイベ！ -街のイベント- 掲載依頼募集中
サイト内検索
検索
もっと詳しく検索する

が分かっていたので、奥田さんと接触する中で大森でも工房開きみたいなことができればいいと思っていました。

私自身が大森以外で工房公開を行う可能性もあったのかと聞かれると、なかったかもしれません。もし私の工房が大森以外の場所にあり、その街のイベントとして誘われたのなら協力はしたかもしれませんが、今回の様に自ら奥田さんに工房開きを提案するということはなかったと思います。提案を受け入れてくださった奥田さんに感謝しています。

藤好さんがオープンアトリエを開催することになったのには、コーディネーターとしての奥田さんの情報発信と調整力が大きな役割を果たしたということですね。ところで公開工房では、まちの人たちとどのように関わりたいとお考えですか？

藤好／イタリアで、オープンスタジオをやっていると、街の人たちは芸術家に気軽に話しかけてきて、芸術家もそれに対して普通に答えています。

作品に触られるのは困りますが、話しかけてこられても問題はありません。むしろいろいろな話をすることができて、そのことで大森に文化を楽しむ場を作れればと思っています。少しでも大森のまちが楽しくなってくれればよいなと思っています。

カッラーラの街で開催されたアートイベント

3．これからやってみたいこと

@machigenki

街元気 Facebook

経済産業省

中小企業基盤整備機構

株式会社 全国商店街支援センター

最後に、お二人がそれぞれこれからやってみたいことについてお聞かせください。

藤好／今年は試験的に私のアトリエだけが公開されますが、私がこれからやりたいことは、同じ日に大森にある作家さんや職人さんのいくつかの工房が一斉に公開されるというイベントです。今は共感して一緒に自分の仕事場を公開してくれる大森の作家さんや職人さんを募集中です。

　作家の立場からすると仕事場を公開することは恥ずかしいことですが、ある意味では自分の仕事の宣伝に繋がります。知ってもらった結果、今度はそれが仕事に繋がれば最高です。現代では９割以上の芸術家は食べて行く事ができず途中で辞めてしまいます。私も苦しい。だから隠れている場合じゃないんです。街の人の立場からしても、近所の工房で何が行なわれているのか、見て知る事ができるって楽しいと思うんですよね。だから一石二鳥。また奥田さんに相談中です。

http://kuniefujiyoshi.com/

奥田／藤好さんと出会い、夜学や工房公開に参加していただく等、大森で暮らす人たちとの出会いの場を創出することができて本当によかったと思っています。アートによるまちづくりをめざす方々には、地道な取組でも情報発信し続けることで、藤好さんのような素晴らしいアーティストとの出会いを生み、それが素晴らしい形で花開くことがあるという具体例を示せたのではないでしょうか。

　これまでにも本当にいろいろな芸術家の方たちに大森に来ていただき、交流の場を提供していただきました。取組をホームページやFacebookなど、多様なメディアで発信して大森の魅力を再認識できましたし、何よりアートを発信することに対して多くの人々からの反響があることを実感しています。

　アートによるまちづくりを行うためには事業資金の確保、ボランティアスタッフの確保など、頭の痛い課題があります。いつかは自立したいと考えておりますが、まだまだ今は行政等と協力してやっていく必要があると思っています。課題があるとはいえ、アートによるまちづくりは、本当にやりがいがあ

ります。小さな取組でもよいので、引き続きいろいろなチャレンジをしていくつもりです。
　アートを通じて本当にまちを変えることが可能なのですから。

https://www.facebook.com/oomori.oavp

シェアする Tweet

登録日 2016年3月11日（金曜）00:00

経済産業省（法人番号 4000012090001）
主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室　事務局／株式会社　野村総合研究所
Copyright © Ministry of Economy,Trade and Industry.